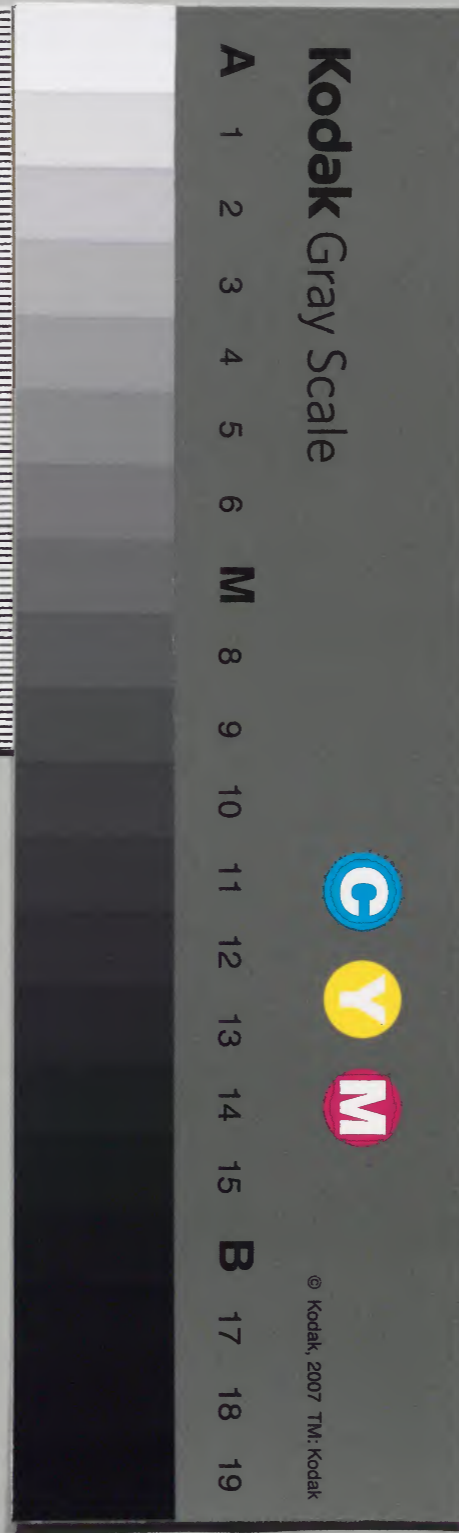


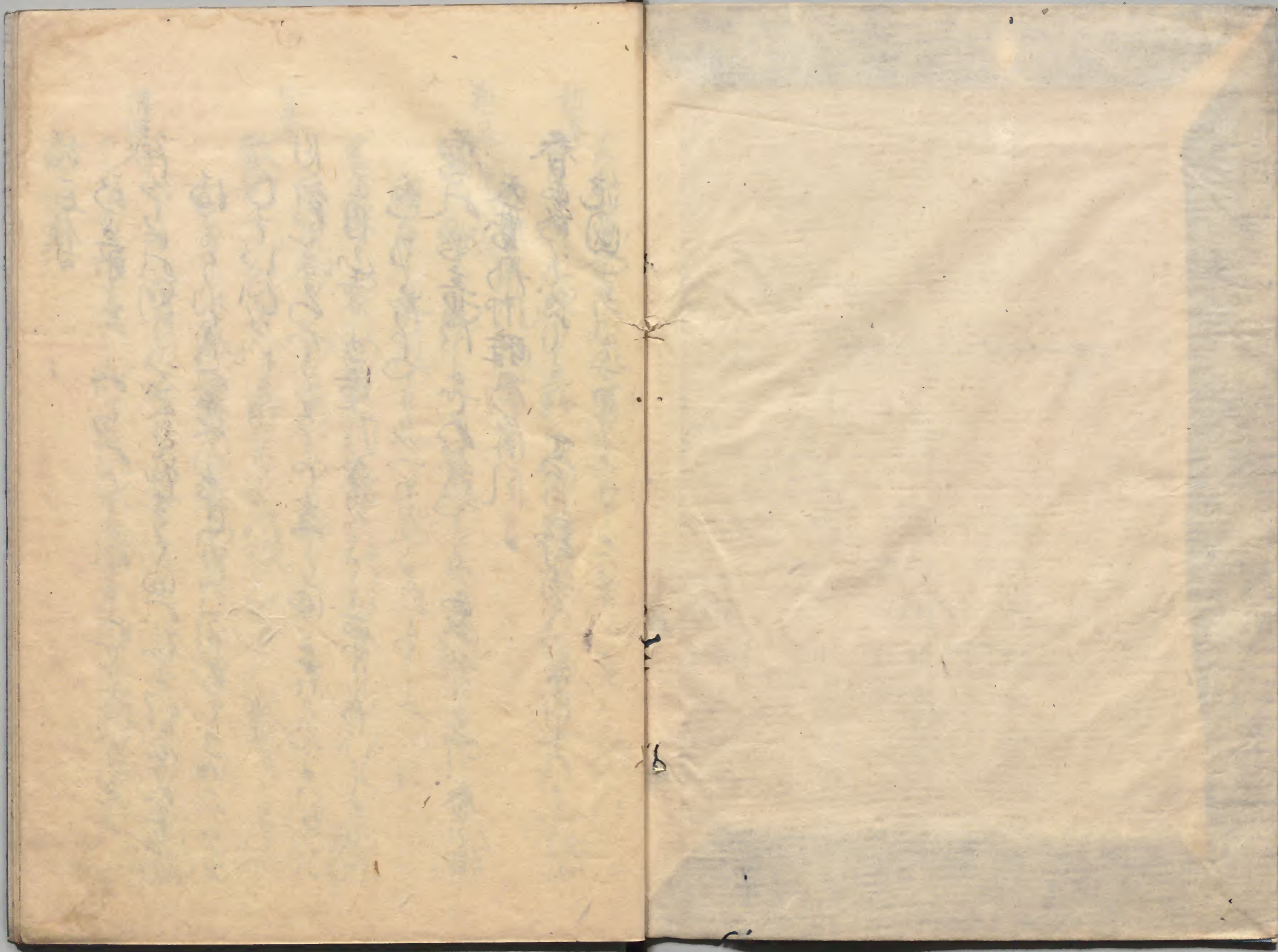
溪心集

九十五

庫文閣内			
三〇	二五		和
一函	五九		書
一五	三七		
架	六四	號	類

内閣文庫	
番號	和 25574
冊數	36 (13)
函號	201 433

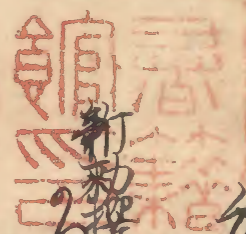




清正集

浅草文庫

和學講談所



あふ所よりみれば
あふ別れはなれぬ
あふ家なほりく月も
あふいひれ

月影さるるを
正月の寺の鐘
春あけの光

天曆の御時
春あけの光

紀國より子
春あけの光

新章
あふ所よりみれば
あふ別れはなれぬ
あふ家なほりく月も

新章
あふ所よりみれば
あふ別れはなれぬ
あふ家なほりく月も

新章
あふ所よりみれば
あふ別れはなれぬ
あふ家なほりく月も

新章
あふ所よりみれば
あふ別れはなれぬ
あふ家なほりく月も

新章
あふ所よりみれば
あふ別れはなれぬ
あふ家なほりく月も

歎

玉丸を八重く思はば色もくもく色もくもく
家も様も花も下もよまた咲かぬ
心も。と桂も下も咲かぬ
わも。此所屏風也

知れぬ心も。如き。霞も。向う音も。人
人乃家も前も。小葉垣も。心も。人
心も。心も。心も。心も。

はれぬ心も。心も。心も。心も。心も。心も。
時鳥も。心も。心も。心も。心も。心も。
時鳥も。心も。心も。心も。心も。心も。
心も。心も。心も。心も。心も。心も。

里も。心も。心も。心も。心も。心も。

女房も。心も。心も。心も。心も。心も。
心も。心も。心も。心も。心も。心も。

あ。心も。心も。心も。心も。心も。心も。
月も。心も。心も。心も。心も。心も。

夏も。心も。心も。心も。心も。心も。
心も。心も。心も。心も。心も。心も。

二

心も。心も。心も。心も。心も。心も。

夏も。心も。心も。心も。心も。心も。

早稲の紅葉はむかしはなれども水底丹霜の

入人

上の海下の水海乃浪もよわらうとて海

をくらし色もなれむむくは紅葉の

むす此心もなれむむくは紅葉の

紅葉のむすもなれむむくは紅葉の

九月九日

けふの日はうらやまの秋の年を

くらし紅葉の九月のむすも

紅葉のむすもなれむむくは紅葉の

紅葉のむすもなれむむくは紅葉の

紅葉のむすもなれむむくは紅葉の

之所乃むすもなれむむくは紅葉の

とて紅葉のむすもなれむむくは紅葉の

松と竹と任の所は女房のむすも

とて紅葉のむすもなれむむくは紅葉の

国九月のむすもなれむむくは紅葉の

紅葉のむすもなれむむくは紅葉の

繪よ

むすもなれむむくは紅葉の

殿上の紅葉のむすもなれむむくは紅葉の

紅葉のむすもなれむむくは紅葉の

繪よ

紅葉のむすもなれむむくは紅葉の

志はまらりし前は梅の雪の匂りたるを
梅のるよふゆも人の自る春の
内は十月十四日
九重よふはらひつゝ
あはらるる梅

梅のうめらふらりしは梅の葉の在明の月
しらよふまは使はるる

限めは行はまはる道に
る中一行大あはる

君為のうらみはるる
東海乃のれい
又一人よ

うらみはるる
あはるる

うらみはるる
あはるる

あはるる
あはるる

あはるる
あはるる

あはるる
あはるる

あはるる
あはるる

新序

頃ハ浦ノ邊ニ居ル者ニシテ...

有比人

鳴也...

五

子親...

服...

是深...

いら...

ハ...

頃ハ...

又...

余...

又...

途...

い...

...

我...

...

結...

...

...

...

...

...

坂

きよきし海よの終ふもさうらうさうらうらんか
四月まはるけし

ちよめ神れんしんて終てなげはかしたけ
森院の寺のせう院たる一と男のつみよめよ

千早振神もさうらうも終てなげはかしたけ
世立目よ

独のまの草葉よの終めたる。ひの露
流れ真砂れまきんたなれたる世よ

まればさうらうさうらうさうらうさうらう
後弟生るこせよの荒れ我のしんねん
かたもさうらうさうらうさうらうさうらう

志のまの程よの史のまの史のまの史のまの史
か一書残るさうらう史行の〇のまの史のまの史

年さうらうさうらうさうらうさうらう
花の松の立枝も我のまの史のまの史のまの史

さうらうさうらうさうらうさうらう
うさうさうらうさうらうさうらう

世にさうらうさうらうさうらうさうらう
あまのまの史のまの史のまの史のまの史

又井と前道かあり
みかみ結らるる。史のまの史のまの史のまの史

るよ
終てなげはかしたけ

あま

住此江乃あまなり

二

わきびりまふりしも岸遠くわきまらるる神

いふと思ひける人よふくは逢ふわきし

ふきしともまらるる。よ月まはるる

わきまらるる。あまの月もあまの月もあまの月

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

千早振神よのりあまの月もあまの月もあまの月

二

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

あまの月もあまの月もあまの月もあまの月

炭撰

いしとてはるる月新

いしとてはるる

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

雖入撰集不見家集奇

後撰

露とある

わびしむはくはく白あは千種をまはす

八月十五夜

女風よいら文行月歌をほらけく此天河雲

あまれを合はるる是作は曲は是を總記

清くいふれ大に忘よこもりてゆるる

そりる

藤原守文

命

世中なるいふ事とみはれよ毛自あは海なる

也

菊よはあはきつるもはれを同よる一袖をいふ

歌忠朝は身由りて今年より朝長は

わが家よりいふはふらふはふらふはふらふは

いふはふらふはふらふはふらふは

あはれ

君よりいふはふらふはふらふはふらふは

わが家よりいふはふらふはふらふはふらふは

いふはふらふはふらふはふらふは

同

いふはふらふはふらふはふらふは

あはれいふはふらふはふらふはふらふは

わが家よりいふはふらふはふらふはふらふは

あはれ

いふはふらふはふらふはふらふは

あはれいふはふらふはふらふはふらふは

